

(別紙1) 機能確認書

共通要求事項	
共通事項	Webブラウザで動作するシステムであり、システムを実行するクライアントにはWebブラウザソフトのみの装備でよいこと なお、WebブラウザはIE11の動作を保証すること 1台のクライアントで同時に複数の業務が起動できること
外部データ出力	各システムで使用しているデータは、任意の条件でCSV形式で出力することができ、利用者がExcel、Justcalcで加工することが可能であること 一覧表のデータをCSV形式またはExcel、Justcalcに出力することができること 各種集計表の数値をCSV形式やExcel、Justcalcに出力することができること
印刷機能	すべての帳票のレイアウト及び出力項目等は、必要に応じて修正できること 帳票は直接印刷するばかりではなく、画面上にプレビュー表示ができること プレビュー表示された帳票は利用者の指示により、任意の倍率への拡大・縮小、ページ移動が容易に行え、必要なページだけを印刷することができること
マスタ管理	各種マスタファイルのメンテナンスが容易にできること
個人管理	使用者ごとに設定したログインID、パスワードで、システムに入れるようにすること パスワードの変更ができるようにすること 所属または、権限グループごとにシステム処理権限の設定ができること 操作履歴のログを採取・管理できること システムの排他情報を閲覧し、排他情報を削除する機能を有すること
掲示板機能	システムのメニュー画面に掲示板機能を設けること
会計基本	
共通事項	所属、科目等の入力項目は数値入力ではなく選択方式にすること 元号改定に対応していること 予算科目、勘定科目は、款・項・目・節・細節とし、年度別に管理でき、期中に変更しても運用上支障がでないように工夫されていること。また、変更を行っても前年度比較できること 決裁欄の表記をユーザー側で変更できること 箕面市上下水道局事務決裁規程等から押印不要な者の欄について、アスタリスク又は斜線を自動で印字できること 調定、負担行為、支出命令、振替等の訂正、削除処理が可能なこと 調定、負担行為、支出命令、振替等の起票日は遡及処理が可能なこと 予算科目の入力時に、勘定科目が確認できること 日計表、仕訳帳、総勘定元帳、収入日計表、支出日計表が出力できること。また、処理内容（日付別、累計）を選択できること
随時処理	調定・収入処理 調定・収入・調定減入力ができ、未収金管理ができること。収入入力時には、同時調定処理ができること 前受金の精算・未精算の管理ができること 各課（室）で科目、納入者、収納期間を指定して収納データの検索、出力ができること 各課（室）で科目、納入者を指定して納入履歴及び未納の検索、出力ができること
還付処理	支出命令書と同じフローで処理ができること 還付預り金の管理ができること
納入通知書・納付書	個別納入者に対して発生する調定を作成し、納入通知書の発行及び再発行ができること。また、納付書作成データから、調定伝票が作成できること 納付書作成時の出力帳票には、納入通知書、納付書の選択、且つ税込額、税抜額の選択ができること。また納入通知書の出力時には、電子公印が印刷できること。 複数予算科目（3条、4条にまたがる）に渡る納付書が1枚で作成できること 発行した納付書に対する、入金・未収金管理ができること 科目ごとに任意で設定した内容を摘要欄に印字できること。また、その内容の変更が容易にできること
支出負担行為何書	増額・減額の変更処理ができること 新規入力は前回入力の複写や入力済伝票を検索し、複写することで入力できること 入力画面で、予算額が表示され、残額管理が容易にできること 節をまたがる複数予算科目（5科目以上）を1枚で作成できること

支出負担行為書
支出負担行為何書からの呼出で、支出負担行為決定書が入力できること
支出負担行為何書の作成を省略して、支出負担行為決定書が作成できること
増額・減額の変更処理ができること
新規入力は前回入力の複写や入力済伝票を検索し、複写することで入力できること
入力画面で、予算額が表示され、残額管理が容易にできること
節をまたがる複数予算科目（5科目以上）を1枚で作成できること
手当について、節レベルで作成することができること。また、その場合、節内展開して該当細節に金額を入力できること
債権者情報は、登録した債権者から検索して選択又は手入力できること
複数債権者の支払処理ができること
支出命令書
直払、未払の選択ができること
支出負担行為書からの呼出で、支出命令書が入力できること。また前払金の場合には、支出負担行為からの呼出した後に、勘定科目を変更できること
新規入力は前回入力の複写や入力済伝票を検索し、複写することで入力できること
支払い方法は、FD払、納付書払、資金前渡などの分類ができること
検収日の入力が可能なこと
支払希望日を任意に入力できること
分割払いの処理ができること
複数債権者の支払処理ができること、また債権者ごとの支払方法を選択できること
資金前渡の支出命令書が作成でき、精算、未精算の管理ができること。また精算時に精算額が前渡額を下回った場合、納付書及び戻入命令書が自動発行できること
対象支出命令書データを指定せずに、科目単位で戻入命令書の作成ができること
支出命令書発行により未払金計上を自動的に行えること。また、期中未払処理を行わない場合や、科目により未払計上する場合など、マスタ設定により管理できること
支払処理
支払予定日の設定、変更、取り消しが一覧画面において容易にできること
支払確定日の設定、変更、取り消しが一覧画面において容易にできること
支払予定日ごとにFDまたはオンラインにより全銀協形式の支払データファイルが作成できること
支払予定や、支払済照会等の機能により、資金繰りや支払先からの問い合わせに容易に対応できること
支払確定により、支払伝票が自動的に作成されること
振替命令書
前払金精算の機能を持ち、旅費の概算払や工事請負代金の前払分を完成後に本勘定へ振替ができること。また、その場合、支出命令書のデータを指定して処理が行えること
前受金や預り金を本勘定へ振替する際に、当該収入伝票を指定して処理が行えること
振替伝票作成には、予算科目については、その執行区分（歳入：調定、収入）（歳出：負担、支出、支払）の選択ができ、勘定科目については、資金区分が選択できること。
所属間、各項目間で振替処理が可能なこと
繰替払の処理に対応できること
検索
予算執行状況検索
所属ごと、予算科目ごとの収入予算執行整理簿、支出予算執行整理簿の表示出力ができること
収入予算執行整理簿は、科目の出力レベル（目、節、細節）及び対象期間が選択でき、所属、予算科目、起票月日、伝票番号、摘要、納付者、現計予算額、調定額（うち消費税）、予算残額、収入額が記帳されること
支出予算執行整理簿は、科目の出力レベル（目、節、細節）及び対象期間が選択でき、所属、予算科目、起票月日、伝票番号、摘要、支払先、現計予算額、支出負担行為額、支出負担行為額と予算額との差、支出命令額（うち消費税）、支出命令額と予算額との差が記帳されること
所属ごと、予算科目ごとの収入予算執行状況表、支出予算執行状況表の表示出力ができること
収入予算執行状況表は、科目の出力レベル（目、節、細節）及び対象年月及び対象税率が選択でき、所属、予算科目、予算額、調定額、調定済累計額、予算残額、収入額、収入済累計額、収入未済額、執行率が記帳されること
支出予算執行状況表は、科目の出力レベル（目、節、細節）及び対象年月及び対象税率が選択でき、所属、予算科目、予算額、支出負担行為額、支出負担行為累計額、支出負担行為累計額と予算額との差、支出命令額、支出命令済累計額、支出命令済累計額と予算額との差、執行率が記帳されること
伝票検索
起票日、伝票種別（調定、調定減、収入、振替、予定負担行為、負担行為、支出、支払、補正、流用、充当）、起票日、職員、科目、金額、支払予定日、債権者等を限定して、伝票の検索ができること
検索結果は、伝票区分、伝票番号、年度、起票日、所属、件名、債権者、科目、金額を表示出力できること
支出負担行為未執行一覧表
支出負担行為書を作成していない支出負担行為何書の一覧表を作成できること
支出命令書未執行一覧表
支出命令書を作成していない支出負担行為何書の一覧表を作成できること
前払金精算・未精算一覧表
前払金について、精算および未精算一覧表を作成できること
資金前渡精算・未精算一覧表
資金前渡での支払済み支出命令書について、精算および未精算一覧表を作成できること

マスタ管理	
債権者登録	連番で管理できること
	既登録情報の参照による追加登録・修正・削除を入力でき、登録内容を確認できる書面が印刷できること
金融機関登録	既登録情報の参照による追加登録・修正・削除を手入力処理できること
月次処理	
	資金予定額が入力できること
	次の帳票が出力ができること
	合計残高試算表
	損益計算書（単月分・累計）
	貸借対照表
	資金予算表
	未収金内訳表
	未払金内訳表
	節別明細表（税込・税別）
	現金預金出納簿
決算処理	
	精算表、決算報告書、収益費用明細書、資本的収支明細書、損益計算書、貸借対照表、剰余金計算書、剰余金処分計算書など法令に定められた決算書類が作成できること
	キャッシュフロー計算書が作成できること
	予算決算対照表が作成できること
	セグメント別決算に対応できること
	消費税計算時に、中間納付税額（国税分、地方税分）貸倒回収・引当金の取崩額・リース会計にかかる税額を考慮して計算でき、その結果を消費税算出表、消費税申告書（付表1～5含む）として作成できること
	申告方法は、個別対応方式、一括比例配分方式の選択ができること
	期中税抜起票方式に対応できること
	調定、調定減、収入、支出負担行為、支出伝票入力において、予算科目の入力により消費税区分が自動的に表示されること。また、その消費税区分を伝票入力画面で変更することができ、免税・課税・非課税・不課税等の混在での入力が可能であること
	収入予算、支出予算の執行額が税率ごとに集計できること
	消費税率を、容易に3つまで設定できること
	将来の法改正を考慮し、課税課目の消費税率は予算科目ごとに設定できること。また、法改正時には、適用日の判断により自動的に税率切替が可能なこと
マスタ管理	
	現年度、過年度の月毎の月締めフラグが設定できること、また、容易に変更できること
	支出予算繰越指定（負担行為残高）において、支出予算を繰り越す、繰り越さないを選択できること
	過年度科目振替指定において、年度更新で過年度科目に自動振替する、自動振替しないを選択できること
	固定資産残高表示方法において、貸借両方に残高を表示する、借方マイナス貸方で残高を表示するを選択できること
	支払予定日において、支払予定日を自動表示しない、自動表示する、支払予定日の入力を行わないを選択できること
	判定・確定済伝票の取扱方法において、伝票種類ごとに、摘要のみ変更可、変更不可を選択できること
	予算残高チェック方法において、予算残高エラーは警告のみ、予算残高エラーは再入力を選択できること、また、予定負担行為、負担行為、支出命令、振替、流用禁止科目と各々において設定できること
	予算残額の表示レベルは節、細節レベルと変更できること
	直払における支払伝票の出力のあり、なしを選択できること
	変更が見込まれる各項目については、マスタによる設定が可能であり、稼働後も容易にメンテナンスができるように保守プログラムが準備されていること
	科目追加等によるレイアウト変更が見込まれる各種帳票（資金予算表等）については、マスタによる設定変更が可能であること
予算編成	
共通事項	
	当初予算、補正予算に対応していること
	暫定予算に対応できること
	査定次数は、最低でも5次の管理ができること
	補正予算の処理は、当初予算編成の処理に準じること
	複数の補正予算を同時に処理できること
	復活要求が行えること
	決算処理と同じ仕様で消費税計算を扱い、消費税計算により、予算に計上する納付額（又は還付額）を算出できること

要求・再要求入力

原課（室）で入力・編集・校正ができること
積算基礎からの要求額入力・校正ができること
算術入力方式とワープロ入力方式の選択ができ、混在させて入力できること
前年度当初予算のデータを利用して要求の入力・修正ができること（※当初予算時のみ）
入力画面において、予算科目の入力により消費税区分が自動的に表示されること。また、その消費税区分を入力画面で変更することができ、免税・課税・非課税・不課税等の混在での入力が可能であること
歳入
補正号数（※補正予算時のみ）、会計、所属、科目を指定して要求額を入力できること
入力内容の修正・削除ができること
歳出・貯蔵品購入限度額
補正号数（※補正予算時のみ）、会計、所属、科目を指定して要求額を入力できること
入力内容の修正・削除ができること

査定入力

予算要求締処理を行うことで、要求入力ができないようになること、また、査定入力が行えるようになること
締処理は、権限者が解除を行うことで、再入力が可能になること
歳入
補正号数（※補正予算時のみ）、会計、所属、査定次数、科目を指定して査定額を入力できること
入力内容の修正・削除ができること
歳出
補正号数（※補正予算時のみ）、会計、所属、査定次数、科目を指定して査定額を入力できること
入力内容の修正・削除ができること

査定状況照会

原課（室）が画面で査定額等の照会ができること、また、ページを指定して印刷できること

帳票出力

次の帳票が出力ができること
予算要求見積書（※当初予算・補正予算時）
予算再要求調書（※当初予算・補正予算時）
予算査定内示書（※当初予算・補正予算時）
予算査定履歴一覧表（※当初予算・補正予算時）
予算履歴一覧表（※補正予算時のみ）
いずれの帳票も入力を行った節情報のみ印刷できること
予算書原稿等
実施計画（※当初予算・補正予算時）
予定キャッシュ・フロー計算書（※当初予算・補正予算時）
予定損益計算書（※当初予算）
予定貸借対照表（※当初予算）
実施計画内訳書（※当初予算・補正予算時）
消費税集計表（※当初予算・補正予算時）

マスタ管理

補正号数は、2桁まで設定、管理ができ、任意の名称を設定できること
職員コードにより、査定を行える権限を設定できること

予算連動

議決された予算データについて、任意の議決日を設定し、会計基本機能へ一括データ更新できること

予算流用、予備費充当、予算所管換え（予算調整）

申請入力
原課（室）で命令書等の入力・修正・出力ができること
流用を受ける科目に対して、複数科目から一度に流用できること
同一科目で所属間の予算組替（予算調整）が可能なこと
命令書等帳票が出力できること
承認入力
権限者で承認ができること。
承認後に申請内容を各種データに反映できること

予算の繰越

予算の繰越が発生した場合に、繰越額及び科目を入力することにより、次年度に自動反映できること、また、支出負担行為データを繰越した場合は次年度の支出命令書作成時にそのデータを利用できること
前払金額のある繰越予算について、前年度支出データを参照して前払金精算ができること
繰越対象データが予算科目別に一覧表で作成出力できること

帳票出力

次の帳票が出力ができること
予算流用命令書
予算調整伝票
予備費充当命令書

企業債管理

台帳登録・修正・削除

- 企業債の借り入れ毎に償還台帳を登録・修正・削除ができること
- 任意の借入額毎に子台帳を作成できること
- 起債前借の台帳管理ができること
- 繰上償還に対応できること
- 起債の許可に係る情報の管理ができること
- 登録時に償還期日毎の元金・利子償還額を自動計算できること、また償還額は手修正できること
- 償還シミュレーションの入力により、償還データ（既存のみ、シミュレーションのみ、既存+シミュレーション）の集計ができること
- 台帳には、最低でも次の項目を含み、各項目で分類ができること
 - 会計
 - 許可年度
 - 借入年度
 - 借入機関
 - 償還方法、利率
 - 資金使途
 - 目的区分
 - 汚水・雨水、交付税の区分（下水道事業のみ）

償還方法

- 最低でも次の要素を組み合わせた償還方法を指定できること
 - 回数
 - 一時償還（満期一括償還）
 - 分割償還
 - 年賦償還
 - 半年賦償還
 - 償還金額
 - 元金均等償還
 - 元利均等償還
- 変動利率に対応できること

帳票出力

- 次の帳票が出力ができること
 - 企業債台帳
 - 借入一覧表
 - 企業債償還予定表
 - 借入先別目的別現在高集計表
 - 年度別集計表
 - 現在高一覧表
 - 現在高集計表
 - 企業債明細書
 - 決算統計向け 2 4 表、4 5 表（水道事業）
 - 決算統計向け 2 4 表、4 5 表（下水道事業）※任意の起債年度以降の集計が抽出、印刷できること

管理

- 統計用の利率テーブルにパターン登録することで、利率ごとに統計データを抽出、印刷できること
- 各項目等についてマスターの管理・更新が容易にできること

貯蔵品管理	
共通事項	先入先出法または移動平均法の選択が可能であること 現年度、過年度の月毎の月締めフラグが設定できること、また、容易に変更できること
随時処理	入庫処理、出庫処理、売却処理、棚卸処理が可能なこと 入庫戻し、出庫戻しが可能であること
管理	各項目等についてマスターの管理・更新が容易にできること
固定資産管理	
共通事項	償却資産、非償却資産のいずれも処理可能であること 資産の種類ごとに、定額法、定率法が選択可能であること 量水器においては、取替法が選択できること 償却の方法は、通常償却、1円償却、完全償却が選択でき、通常償却の終了後に1円償却にするなど、変更が可能なこと 減価償却の開始は、取得年度の翌年から行う場合と、取得月の翌月（月割り）の選択ができること 国庫補助金や、工事負担金など、財源内訳は10種類以上登録でき、財源毎の長期前受金戻入額を容易に算出できること リース会計に対応していること リース契約終了後に本資産に振替できること 台帳には、最低でも次の項目を含み、各項目で分類、データの抽出、集計ができること
会計	資産名称 科目 所属 処理区 取得日付 耐用年数 取得価格 財源内訳（10項目以上） 取得原因 数量 備考欄（50文字以上の任意の文字が入力できること）
シミュレーション処理	見込データの入力により、資産データ（本データ、見込データ、本+見込データ）の集計ができること
帳票出力	次の帳票が出力ができること、また、科目の出力レベルは（款・項・目・節・細節）と選択できること 固定資産台帳（1件ごと、または複数の台帳を選択して一括して印刷できること） 固定資産明細書 有形固定資産明細書 無形固定資産明細書 投資明細書 有形固定資産一覧表 無形固定資産一覧表 投資一覧表 財源別固定資産明細表 財源別固定資産一覧表
シミュレーション処理	見込データの入力により、任意の組み合わせ（見込データ、本データ+見込データ）で各種帳票が集計、出力できること
管理	各項目等についてマスターの管理・更新が容易にできること